

職務体験記

【募集職種】一般事務職

「市町村職員の魅力って何だろう?」「幸田町の魅力って何だろう?」、この職務体験記を書くにあたり改めて考える機会になりました。

私は自分が育った幸田町を何となく好きであったこと、民間企業と比較して公務員が安定しているのが魅力的に見えたため、少々安易ですが幸田町への就職を希望しました。

最初に配属された部署は産業振興課でした。産業振興課の業務範囲はかなり広く、商工業・観光・農業・イベント等、最近ではドラマや映画等撮影の誘致活動まで行っています(ドラマ“最高のオバハン”は幸田町で撮影されました。配信サイト等で是非ご覧ください)。今まで公務員に対して抱いていたイメージとは異なり、役場から外へ出て多くの現場を回り様々な人と関わり幸田町を盛り上げようと町内外問わず走り回りました。特産品(筆柿、いちご、なす等)のPRや新たなご当地グルメ(角煮バーガー等)の開発、幸田町のイベント(幸田産業まつり、彦左まつり等)開催といった、幸田町内外の方に楽しんでもらえるような取り組みを行ってきました。業務量もあり頭を悩ますことが何度もありましたが、職場の仲間や地元の農業者や商工業者等多くの方の支えがあったおかげで何とかやりきることができました。自分たちの仕事の頑張りで作上げたものによって、住民の方の笑顔が見ることができたとき、本当に頑張ってよかったと思います。

次に配属されたのは税務課です。異動当初は全く異なる仕事内容に戸惑いました。先輩職員には、「役場職員は部署によって業務が大きく異なるから異動は転職をするみたいなものだ」と言われたことが印象に残っています。また、税金と一言で言っても、住民税、軽自動車税、固定資産税、入湯税、たばこ税等多くの種類があり、私は固定資産税の担当をするようになりました。固定資産税は土地・建物・償却資産(事業用資産)にかかる税金です。新築された建物の調査や町内にある土地の利用状況等を調査し税額を決定しています。しかしながら、分かりやすい税金とは決して言えず時に住民の方からも厳しい声を頂くこともあります。前回部署とは違い、法令に基づく業務がほとんどであり、場合によっては町民の方が異議を唱えていても強制的に税を課することがあります。町民の方の笑顔を見る機会は減りました。それでも税務課の業務があるから町民の方に継続的な行政サービスができ、それが町民の笑顔につながるのだと信じ、誇りをもって業務に従事しています。

また、市町村職員の立場としても忘れてはいけないのが、令和6年能登半島地震です。1月1日に発災し、建物の倒壊や地震に伴う火災、津波等日本中に衝撃を与えました。幸田町は石川県内灘町と災害時相互応援協定を結んでおり、私は1月に派遣として災害支援をしてまいりました。また、5月にも愛知県の対口支援の制度により石川県志賀町へも災害支援

を行いました。業務内容はともに被災者へ発行される罹災証明書の被害状況の度合い（全壊や半壊等）を判定する住家の被害認定調査です。この被害認定の度合いによって受けることが出来る支援が変わるため、迅速かつ正確な作業が求められました。事務に従事する中で、目の当たりにしたそのまま沈んだ建物や真二つになった建物等、そこに存在したはずの当たり前の日常が壊された様子が今でも目に焼き付いています。あまり目立ってはいませんが、石川県の復興のために全国の市町村職員が力をあわせています。

市町村職員は地元に着いた仕事ができます。しばしば、市町村職員は地域のコーディネーターだと言われることがあります。主役である住民の方が輝くための手助けをすることが私たちの役割です。住民や地域に合った支援や取組を考えるのは市町村職員ならではのやりがいと楽しみです。そして、幸田町は素敵な町です。私たち職員は多くの住民の方を支えると同時に多くの住民の方に支えられています。このあったかい幸田町で働くことが出来て本当に良かったと思います。